

えんがわ

第2号

2007年5月発行

生活を 支える医療

湘南国際村クリニックでは、昨年10月から本格的に訪問診療を開始しました。衣笠病院グループではいろいろな在宅事業があります。その一番若い在宅事業としてスタートしました。

訪問診療で大切にしていくことのひとつに、「その人らしい生活を支える」ということがあります。病院では病気を治すことを大事にしますから、患者さんの生活の場から切り離して治療を優先してもらおうことが多いように思います。『赤ひげ診療譚』という小説で「あらゆる病気に対して治療法などはない、医療が

もつと進めば変わってくるかもしれない、だがそれでも、その個体のもっている生命力を凌ぐことはできないだろう」と赤ひげが語る場面があります。江戸時代を舞台に語られたその言葉はいまでも真実味をもっています。私たちは日進月歩の医療について行くように研鑽を積み重ねなければならぬ。とはもちろんですが、医療に対して謙虚にならなければならぬ面もあります。そうならば、その人らしい、その家族らしい生活・人生を送ることをお手伝いするために、私たちにできる限りの「医療」を用いても良いのではないかという気がします。

湘南国際村クリニック
大友

えんがわ在宅 ひとくちメモ

おむつの種類

介護の相談で「おむつを買に行つたが、いろんな種類があつて、どれを買つて良いか分からない」との声をよく耳にします。たしかに、薬屋さんにはいろんなおむつがずらり……。今回は、おむつの(テープ止め型・パンツ型)のちがいついて取り上げたいと思います。

基本的に「テープ止め型」



はおむつカバーとおむつが一緒になっていきます。寝て過ごす時間が長い方にお勧めです。

欠点としてはテープを取りはずしたり、つけたりしなければならぬので自分でトイレに行つて排泄することが難しくなります。

一方、「パンツ型」は下着のような形で上げ下げがしやすい形です。ベッドから起きている時間が長く、立ったり座ったりすることができるようにお勧めです。

欠点としては腰のギャザーの部分でもれを防ぐ形になっていないため、横になって排泄するともれやすいということがあります。このような点を考えて、使う方の体の状況と生活の仕方にあわせて選んでみてください。

衣笠病院ケアセンター
脇田

暖かくなってきましたね。